

巻頭言：地域をつなぐ図書館	1
特集：「県立図書館 新しい“本館”のご紹介」	2.3
連載：わたしのイチオシ	
神奈川県立川崎図書館「ものづくり情報ライブラリーの催事」	4

地域をつなぐ図書館

神奈川県図書館協会 企画委員会委員長（横浜市中心図書館）小田川 紀可

本年4月より神奈川県図書館協会企画委員会委員長に就任しました、横浜市中心図書館の小田川紀可と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

横浜市民立図書館は、平成26年に策定した第二次横浜市民読書活動推進計画のもと、市民に身近で便利なサービスを目指して取組を進めています。

今年1月には、展示やイベントスペースを備えた図書取次所「日吉の本だな」を新たに開設しました。また、4月には、移動図書館「はまかぜ号」を2台へ増設し、全18区へ巡回するほか、イベントにあわせた運行もできるようにしました。身近で本を借りられる場所を増やすとともに、人が集う機会を創出し、地域での読書活動を推進しています。

また市内の各図書館においても、地域の施設、団体や小中学校と連携した取組を進めています。令和4年度には、読み聞かせボランティアグループと連携したブックスタート事業や、子育て支援拠点や町内会へ司書が出張して読み聞かせ・図書修理の講座を行う

「出前としょかん」を実施している神奈川県図書館が、「子供の読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受賞しました。

コロナ禍によりオンライン化が進み、人の移動距離が短くなったことは、市民にとって地元の図書館に目を向ける機会にもなっています。読書に関わる団体、施設を支援することはもちろん、図書館を利用していない方のニーズもとらえ、図書館が人と本、人と人、地域をつなぐ拠点となるよう、今後も取組を進めてまいります。

県内の各図書館においても、社会や時代の変化に応じた新たな取組を模索されていることと存じます。こうした中で、神奈川県内の図書館員一人ひとりがより力を発揮するには、当協会のネットワークを活かし、情報交換や人材育成など協力・連携が重要と考えています。県下図書館のさらなる充実に向けて、引き続き皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

特集：「県立図書館 新しい“本館”のご紹介」

2022年9月1日、神奈川県立図書館の新しい「本館」が開館しました。みなさまのお手元にも開館のお知らせポスターやリーフレットが届いていると思います。これまでの県立図書館と違うイメージを抱いていただけたら、積み重ねてきた準備が報われる思いです。神奈川県図書館協会の会員の皆様にご紹介したいこととして、本館のコンセプト、それを実現するための機能、機能を実現するための空間、という3点があります。これは、プロジェクトチームを立ち上げ、どのような図書館をつくるのかを検討した順序でもあります。これに加え、本との出会いのきっかけづくりのために施した工夫についても紹介します。今後、図書館のリニューアルや設備の更新を検討する際の参考となれば幸いです。

1. 本館のコンセプト

2016年に発表した「県立図書館の再整備に向けた基本的な考え方」の中に目指すべき県立図書館像を示しています。現在の専門的、広域的機能を基本に、新たに「価値を創造する図書館」、「魅せる図書館」としての機能を付加するというものです。この「価値を創造する図書館」として新しい本館を整備し、「魅せる図書館」として前川國男館を整備することとしています。「価値を創造する図書館」とはどのような図書館なのか。前出の基本的な考え方には、「本を介して人と人が交流し、図書館の専門性や広域性を活かして、さらなる学びにつなげていくことを支援していく」とあります。これをコンセプトとして、本館のソフトとハードを考えていきました。



2. 本館の機能

これまでの県立図書館では、資料提供やレファレンスサービスといった個人学習の支援が中心でした。図書館を利用した方による研究の成果発表の場も特に設けておりませんでした。コンセプトである「本を介して人と人が交流する」「さらなる学びにつなげる」を実現するために、学びのきっかけ・気づきを始点に、個人での読書や調査、他者との議論や知識の共有、成果を発信し社会へ活かす、それが新たな気づきへつながる、といった学びを深めていく仕組みの構築を検討しました。その仕組みが「交流の場」となり、さらなる学びから新たな成果を生み出す活動拠点が「創造の場」となることを目指して、新規事業を立ち上げました。これにより、これまでの図書館の「自習の場」「貸出の場」というイメージに加え、「交流の場」「創造の場」という新たなイメージへの発展を目指しています。

学びを深める仕掛けとして立ち上げた新規事業は「Lib 活(リブカツ)」です。従来の講座は講師対受講者が一対一の関係であり、受講者同士のつながりを生みだすものではなく、受講後の学習のフォローは関連資料の紹介のみでした(単発・受動型)。「Lib 活」では、関連資料の読書の内容を発表し感想を共有する機会や共に課題に取り組むプログラムを用意し、受講後の参加者同士の交流を促します。同じ興味を持つ仲間と共に、専門家の知見を生かしながら、交流を通じて知識を広げていくという仕掛け(継続・能動型)です。図書館「Library」の中で「部活動」のように、探究心を満たす学びの体験を提供することを目的としています。学んだ成果を発表する場も準備しました。Lib 活の一つ「本を選び、本を読み、本を朗読する講座」では、受講後に希望者は図書館で朗読ボランティアとして活動する機会があります。

3. 機能を実現するための空間

これまでの県立図書館にはディスカッションや共同作業に適した場所はありませんでした。本館のコンセプトに基づき機能を実現するためには、「Lib 活」のようなアクティブ・ラーニングに適した場所が必要となります。

また、さらなる学びを推進するために、個々の学びを深める場所、学びの基本である読書に適した場所も必要です。そのような観点から、空間をデザインしていきました。

本館は地上4階建てです。資料は、1階に社会科学資料、2階に地域資料(かながわ資料)と歴史資料、3階に人文科学資料を配置しています。4階は「学び⇄交流フロア」という名称で、資料はありません。個人研究からグループ学習、ディスカッションまで、様々な学びのスタイルを実現するフロアです。

個人向けの座席として、予約制の「研究個室」と間仕切りのある予約不要の座席「研究ブース」を造りました。県立図書館には、地域資料のコレクションである「かながわ資料」があります。これらの資料は貸出をしていないため、調査研究のためには長時間の滞在が必要です。このように、多数の資料を広げてじっくりと調査したい方を想定し、個室を用意しました。「研究ブース」には車いす利用者用の座席があります。手元のボタンで机の高さを調節できます。

また、グループ学習向けの座席として、「学び⇄交流エリア」と「ディスカッションルーム」を造りました。「学び⇄交流エリア」は大学図書館のラーニングコモンズのような開放感のある空間です。会話が可能なスペースであり、椅子や机は可動式で、ホワイトボードが自由に使えます。「Lib 活」をモデル事業として実施し、このエリアの利用の見本を示すことにより、将来的には県民の自主活動による利用を活性化することを目指しています。

「ディスカッションルーム」には電子黒板を設置しました。導入を検討している図書館の方は、ぜひ使ってみてください。なお、「学び⇄交流エリア」と「ディスカッションルーム」は仕切りを取り外すことにより、講演会などイベントに使用可能な空間に変更できます。

読書の場所にもこだわりました。「静寂読書室」はその名の通り音を出してはいけない空間です。筆記用具やパソコンは使用できず、読書に集中したい方のための座席です。「ザ・リーディングラウンジ」は、いすの座り心地にこだわりました。普段とは違う読書の時間を過ごせる、ゆったりとした空間です。これらのスペース以外にも、各階にさまざまなタイプの座席を用意しました。

4. 本との出会いのきっかけづくり

県立図書館を訪れた方が、学びのきっかけに出会ったり、アイデアがひらめいたり、何か気づきを得ることができるように、いろいろな工夫も試みています。これまでも所蔵資料を紹介する展示は行ってきましたが、大型資料も展示できる可動式展示台や、視聴覚資料も展示できるプロジェクターと指向性スピーカーを設置したギャラリーを1階に造りました。さまざまな機関とのコラボレーション展示も試みたいと考えております。

ここだけでなく、書棚のそこかしこで本が紹介されています。司書のキャラクターが見えるセレクトで、小さな空間に本の面出し展示をするなど、書棚を通った方が思わず手に取ってみたいくなるような工夫を凝らしています。

また、収蔵冊数を増やすために集密書架を導入しましたが、「公開書架」であり誰でも入ることができます。ここには全集や年鑑、シリーズ本などが入ります。自ら書庫に入ること、思いがけない資料と出会うきっかけとなるかもしれません。

本のない4階にも、大人の学びに関する情報との出会いが待っています。「生涯学習相談デスク」があり、たくさんのパンフレット類を設置しています。仕事探しにハローワークに行くように、大人が学びについての様々な情報を探するために図書館に行く、そんな文化が定着することを目指しています。

様々な本や情報や人との出会いが生まれる場所が快い空間であるように、家具のデザイン、床やブックラックなどの色、表示に使用する文字など、細部にこだわりました。ぜひ、ご見学にいらした際は、これらのデザインや色にも注目してみてください。

そして、新たに県立図書館のグッズも作成しました。1階のライブラリーショップ「猿田彦珈琲」で販売していますので、こちらもぜひご覧ください。

「価値を創造する図書館」の「価値」とは、個人の関心事を軸とした個々の知の形であるとイメージしています。そのような価値を創り出すきっかけの場所として、新たな県立図書館を活用していただけるよう、一歩進んだ学びを求める利用者の皆様にご紹介いただければと思います。

(神奈川県立図書館 山下樹子)

連載 わたしのイチオシ

神奈川県立川崎図書館「ものづくり情報ライブラリーの催事」

「私のイチオシ」ということで、当館の特色ある事業やサービスを頭の中に浮かべてみました。ものづくり技術を支える専門的な資料、調査・研究に役立つ電子ジャーナル・データベース、国内有数のコレクションである社史、およそ7,200冊を有する国内外の規格……。ありがたいことに「イチオシ」したい候補がたくさんありました。

今回は、たくさんの「イチオシ」の中から、自分が担当として関わった「催事」を中心にご紹介させていただきます。

「ものづくり技術」を支える機能に特化した専門的図書館である当館では、催事も専門的であり、他の図書館とはひと味違います。図書館のイベントとして知名度が高い（であろう）読み聞かせ会やビブリオバトルは、当館では現在のところ開催していません。

まず毎年秋に開催している「大人の理科教室」。人生100歳時代に向け、図書館が生涯を通じた「学び」と探求のきっかけづくりや県民の「学び直し」を支援するため、NPO団体の方に講師をお願いして開催しています。これまで、偏光フィルムとセロテープを組み合わせて、透過する光を分解できる装置を作って光の性質や特徴を学んだり、ビー玉で逆立ちコマを作成し重心について学んだり充実した教室を開催し、毎回好評です。コマ1個でも大人が身を乗り出して楽しめる教室です。



2019年度開催 大人の理科教室

次に、知的好奇心に応える多彩で魅力的な「知の機会」を提供する「子ども科学実験室」は、小学生を対象に開催する実験教室です。コロナ禍になってから開催できていませんでしたが、今年は約3年ぶりに子ども向けの実験教室を開催することができました。



2019年度開催 子ども科学実験室

他にも、館内の「ものづくりギャラリー」で行う展示に関連するテーマの専門家による「展示関連講演会」、企業関係者と弁理士が集まり、知的財産に関する優れた文献の輪読を行い、各自の知識や意見を出し合って、参加者全員の知財に関する思考力や知識の向上を図る「企業関係者と弁理士の知財研究会」、当館で利用できるデータベースの使い方を解説する「ミニレクチャー」、国内で唯一のイベントとして、前年刊行の社史をまとめて見ることができる「社史フェア」等々、個性的な催事を開催しています。

催事の多くは、当館ホームページで掲載するほか、チラシを県内市町村図書館へ配布させていただいています。いつも広報にご協力いただきありがとうございます。少しでも興味がある催事がありましたら、図書館で働く皆様にも、お申込みいただければ幸いです。

(神奈川県立川崎図書館 小池綾子)